

児童虐待防止

支援者のための ケースワーク カウンセリング 講座 2015

温かいつながりを期待してこの世に生まれてきたはずの子どもたちが、虐待を受けて苦しんでいます。体の痛みに耐えながら、しかし、彼らは決して親を恨むことはありません。なぜなら、この世での唯一の繋がりを失いたくないからです。「何か理由があるはず」と幼い心の中で自問し、親に愛してもらおうと必死に生きようとします。

なぜ悲惨な児童虐待が起こるのか。この根本的な問いに答えるには、まず、「普通の家庭」では虐待は起こらない、というあたりまえの事実を理解することから始まります。**普通の家庭とは母と子の愛着関係が成立している家庭です。**愛着関係とは、母親が子の感覚や感情を我がことのように感じ、子が寒そうにしていれば親も同じ寒さを感じ、子が美味しそうに食べていけば笑みがこぼれる、そんな母子の関係です。愛着関係があれば、母親は子の痛みを自分の痛みとして感じてしまうので、虐待が起こるはずはありません。

母子の「愛着関係」が成立していないこと、これが虐待の原因です。

講義1 虐待の原因は愛着関係の不成立 A. 虐待の4つの類型(身体的虐待/ネグレクト/心理的虐待/性的虐待)を知り、これらに共通な母子関係=「心理的ネグレクト」=愛着関係の不成立を学びます。B. 愛着関係とはどういうものかの一般的な理解を得て、虐待の原因であるC. 愛着関係が成立しない理由を3つに分けて考察します。①親に知的能力障害がある場合、②親に精神障害がある場合、③そして、母親に被虐待体験がある場合です。

講義2 親の知的能力障害と虐待の関係 虐待の原因として最も多いA. 母親の知的能力障害について、現場で出会う母親像、厚労省の統計などから分析します。「母性の欠如」、「親としての無責任さ」、「養育能力の低さ」、「コミュニケーション能力の低さ」、「一方的な主張」などの多くは、**軽度**知的障害に起因しますが、見逃されています。なぜなら、一般的には**中等度以下**の知的障害(IQ<50)が障害と理解されているからです。B. 母親の**軽度**知的能力障害とその虐待内容との密接な関連について学びます。

講義3 「虐待の世代間連鎖」のように見えるもの 虐待は世代間で連鎖すると信じられています(A. 虐待の心因説)が、虐待は母親の養育能力の低さによるものがほとんどで心因によるものは多くはありません。連鎖のように見えるものは、①母親の知的障害の遺伝的背景、②精神障害の遺伝的背景と、そして、③被虐待体験をもった母親の心因(B. 被虐ママの心理的理解)の3つが混在したものです。**心因だけの「虐待の連鎖」はありません。**

講義4 被虐待児の不応問題 被虐待児は幼児期～小学校低学年で**発達障害**と誤解されたり、中学生以上では**統合失調症**と誤診されたりします。理由は彼らが集団に溶け込めなかつたり、社会や人を極端に怖がるからです。彼らを理解するためにA. 反応性愛着障害・脱抑制型対人交流障害と、B. 被虐待児が誤解されやすい**発達障害・精神疾患** C. 普通の家庭で育った支援者が被虐待児を誤解してしまう**心理**(「試し行動」等)について学びます。

講義5 「被虐ママ」の子育て支援 虐待を受けて育った女性は育児に独特の不安や困難を感じます。彼女らを講座では「被虐ママ」と呼んでいます。あやしてもらった経験がないので子のなだめ方を知りませんし、正当に叱られたことがないため、子を叱れません。世間から孤立し、自信を喪失し、子を恐れ、子を愛せないと自分を責め、「子どもと一緒に死んでしまいたい」と漏らします。A. 「被虐ママ」を知る、B. 「被虐ママ」の子育て不安と子どもを愛せない心理、C. 「被虐ママ」の回復と支援方法

講義6 子と母を守るためのケースワークの実例 ①母親に知的能力障害がある場合と、②母親に障害がない場合に分けて考えます。A. 母親に知的能力障害がある場合の方針は、**母親と友好的な関係を保ちながら、直接に子を支援する**です。助言や支援を受け容れない親、拒否的な母親とどうつきあい、子を守るのかを検討します。B. 母親が**正常である場合の方針は、母親の心理的な支援を中心に行う**です。「被虐ママ」と支援者との心が通い合えば、母親は劇的に回復して、子との親しい愛着関係を取りもどします。

- 日時 奇数月の第2金曜日 18:30 - 21:30 全6回
2015年5/8 7/10 9/11 11/13 2016年1/8 3/11
- 場所 東京学院ビル3階教室(JR水道橋駅西口徒歩1分)
- 定員 60名(先着順)
- 参加費 6回 30,000円